

関係づけて読む力を育てる説明文指導

— 論理的な思考力の育成を目指して —

岐阜県岐阜市立長良小学校 馬場 雅也

一 これから求められるもの

新学習指導要領の改訂及び解説が出された。「生きる力」をねらいとする学習指導要領の

知の側面「確かな学力」の重要な要素は、

①基礎的・基本的な知識・技能の習得②知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等③学習意欲である。

しかし、現状の学力について、PISA調査、全国学力・学習状況調査等では、課題点が挙げられている。

このように、求められているものとその課題点に比べていくことが、これから最も重要になってくる。それが、『論理的な思考力の育成』である。そして、この『論理的な思考力』は、私が現在までに研究実践を進めてきた、『関係づけて読む力』そのものである。説明文教材の指導を通して、『関係づけて読む力』を育てていくことは、まさに『論理的な思考力』を育てることである。

二 願う子どもの姿

私は、次のようなたくましい子どもの姿を願い、実践を進めてきた。

言葉に立ち止まり、①言葉を具象化することを通して、語と語、文と文、段落と段落の内容を②関係づけて読み、書かれている内容や構成をとらえ、正確に内容を理解する姿

そして、私の「願う子どもの姿」が育つことで、子どもの『論理的な思考力』が育つと考える。

- ①言葉を具象化：「言葉に立ち止まり、その言葉の持つ意味、内容を文脈の中で具体的にイメージすること」
- ②関係づけて読む：「言葉に立ち止まり、その言葉の持つ意味、内容を文脈の中で理解していく（具象化する過程で、文内や文間、段落間などで、語と語、文と文、段落と段落の内容などをつないで考えながら読む）」

三 子どもの実態

今までの実践の中で、次のような子どもの実態が見られた。

○形式段落を意識して、文章を読み取ることが

できる。

○文章中から筆者が伝えようとする中心語句・中心文を意識して取り出し、文章を読み取ることが出来る。

○言葉に立ち止まり、言葉を具象化することで、語間・文間・段落間を関係づけて読もうとする。
●正確に語間・文間・段落間を関係づけ、筆者の伝えようとする事柄などを、文章から読み取っていくことに弱さが見られる。

●内容を拡散的に読むことで、断片的な内容の理解になることがある。

四 研究主題と仮説

研究主題

関係づけて読む力を育てる説明文指導

研究仮説

言葉に立ち止まり、言葉を具象化することによって、語と語、文と文、段落と段落の内容を『関係づけて読む力』が育ち、正確に書かれている内容を理解することができる。

五 研究の内容

1 指導内容の具体化と重点化

子どもの実態分析や現行の教科書教材の分析から、次のような指導内容の具体化と重点化を図った。

①関係づけて読む力の具体化と重点化

現時点で、『関係づけて読む力』を次の六点で整理し、指導内容を具体化するようにする。

- 「順序立てて」読む
- 「比較して」読む
- 「因果関係をとらえて」読む
- 「類別して」読む
- 「構造をとらえて」読む
- 「類推して」読む

特に、傍線の三つの力を重点として指導していくことで、他の『関係づけて読む力』も育てていけると考える。

②関係づけて読む段階

『関係づけて読む力』を育てるためには、子どもの実態や指導要領、教材分析から、次のような段階で指導していくことが大切であると考える。

- 低 ← 高
- 文内・語間関係
 - 文間関係
 - 文と段落間・段落間関係
 - 部分と文章全体との関係

2 関係づけて読む力を育てる指導の在り方

現在までの実践で、明らかになってきた指導の在り方について、次の点で整理をする。

①単位時間の学習過程

- ア 言葉に立ち止まる過程
具象化していこうとする言葉を明確にし、読みの足場を作る過程
- イ 具象化する過程
言葉用具象化することによって、語と語、文と文、段落と段落の内容を関係づけて読む、正確に内容を読み取る過程
- ウ まとめる過程
筆者の伝えたいことや主張が明確になるようなまとめを行う過程

②立ち止まる言葉を決め出す教材分析の視点

- ア その説明文教材では、どのような要旨・要点、知の獲得を生み出すか
- イ どのような『関係づけて読む力』が必要か
- ウ どの言葉の具象化を通して、関係づけて読むのか
- エ その言葉は、どのような意味や内容を持っているのか
- オ 実際に、どのように関係づけて読む思考を働かせるのか

③関係づけて読む思考を働かせる活動

- 生活経験と結びつけて
- 実際の事柄と結びつけて
- 既習語に置き換えて
- 挿絵・図と結びつけて
- 既有知識と結びつけて
- 身体をつかって表現して
- ペープサートを操作しながら説明して
- 絵や図にかいて
- 文図にして
- 文脈の中で評述されている言葉と結びつけて
- 文脈の中の別の言葉と結びつけて

七 まとめ

説明的文章に子どもたちが出会い、その中で新たな知の獲得をしていく喜びこそ、子どもたちの読む目的であろう。しかし、今後、自らの力で読み進めるためには、以上に述べた力が必要になってくると考える。その力をつけるための指導内容・指導の在り方について実践を踏まえ、より明らかにしていく必要がある。

ばば まさや 岐阜県岐阜市立長良小学校教諭。個人研究テーマ「関係づけて読む力を育てる説明文指導」を掲げ、研究実践を進めている。